

ユネスコ協会就学支援奨学金

奨学生から寄せられたお手紙紹介

私は進級し、この4月から 高校 2年生になりました。高校生活の最初の1年は、とても充実したものに なりました。部活動と、学習を両立することができました。そして、将来の目標も定めることもできました。その目標は 大学を卒業したら、地元、大船渡に帰って来て、これからの復興に建設面で 関わりということです。そのために、新しく始まる 2年生での学習に取り組みなから、復興の過程を見て、学んでいきたいと思います。

最後に、募金者の方々には 大きな力をいただいています。その力を無駄にしないよう、そして、その大きな力を自分の力にして、生に1度の、これからの 学校生活を 送っていきたく と思います。

私たちの中学校は壊滅的な被害を受けました。ぼくは、その当時 中学校ではなかったため、ぼくが今いる 中学校は、そのために仮設校舎になり、そこで、学校生活を送っています。大震災のとき、両親の会社が被害を受け、普通に仕事を出来る状態ではありませんでした。特に父の会社は水産業だったので、大変でした。魚がとれるまでは、かたづけにまわれ、かいにさせました。そのため、収入が減ったため、このような支援をしていただけることになってとても助かりました。ぼくも高校に入って勉強や部活をがんばりたいです。そして、この奨学金のために募金をしてくださった方々 ありがとうございます。今でも、健康に学校生活をくらしています。

この度は、奨学生 決定 通知 ありがとうございます。

私は 東日本大震災の時、両親が 出かけていながら、たまたま 近所の方々に 尊かれ 小学校に 通いました。両親とは 夜8時過ぎに やっと 会えたのもつかの間、すぐ、原発事故が、双葉町の人が 全員 避難しました。避難所では 老若男女が 詰め、とほくに くれた姿が 強く 印象に残っています。小学生ながら 私は その 時の 町役場の方や 地域の方や テキパキとした 行動に 感動しました。同時に緊急時に 人のために 行動できる 人間に なりたいと 強く 思うようになりました。

今、現在も 避難生活を 強いられた 中学3年生という 人生の 節目に 立ちました。志高く 目標に向けて 努力できる 人間を 目指し、目の前の 高校受験 が がんばりたい と思います。

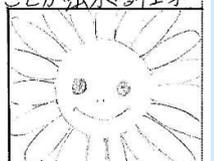


震災のとき、僕は 小学4年生でした。学校が早く 終り、近くの 友達の家で 遊んでいたとき 地震がありました。すぐ 家の外に出て ぬいぐるみの 正座をしていました。ものすごく ぬいぐるみ、ものすごく 強い 地震でした。とても かわたのを 覚えています。その後、すぐ、お父さんが 走って ぬいぐるみに きてくれて、僕が 乗った 自転車に 乗って 家に 帰りました。そして けんた君に 助かりました。こちらの 学校は 家から 4km くらい 離れて いるので、小学5年生からは、としまで ハズレでしたが 自転車に 通う事になりました。でも けんた君の せいで、自転車をおいて いったので、津波で ぐちゃぐちゃに 壊れてしまい、せ、かく お父さんに 買って くれたのに とても 悲しかったです。

甲子園 目指し 元氣張ります。

もう1つ 5年になります。たくさんの人たちから 助けてもらっています。まだ、何も 返す ことは できませんが、いつか 返す ことが できるように がんばります。まず、高校に 合格し、もっと 勉強 しない ためだ と思います。合格して この 奨学金を 有効に 使わせて いただきます。日本ユネスコ協会の方、全国の 支援者の方々 本当に ありがとうございます。

日本ユネスコ協会連盟のみなさん、全国各地の募金者のみなさん、ありがとうございます。私は今、勉強と頑張っています。中学校のときより家にいる時間が多く、親のお手伝いもするようになりました。また学校では、友達と毎日楽しく過ごしています。いつも学校に行くのが楽しみです。将来は、全ての人が笑顔になる、そして笑顔を見るのが出来る仕事に就きたいと思っています。毎日楽しいのも、夢があるのも、みなさんのおかげです。本当にありがとうございます。



私は震災時小学4年生でした。今まで私は4回引越
しをしました。小学5年生の時、福島から千葉に引越し
をして、最初は学校に馬川染む事が出来るかとても
不安でしたが、クラスのおんなは優しく、学校行事にも
積極的に取り組む事が出来ました。小学6年生の時の担任の
先生は、私が特に尊敬する先生で、私も将来そのような
先生になりたいと思っています。

今年の1月に第一志望の高校に合格する事が出来ました。
4月からは、高校生になるので小学校の先生という夢を
叶えられるように、支援してくださった方に感謝の気持ち
をもって、努力していきたいと思ひます。

支援してくださった方、本当にありがとうございました。



保護者から寄せられたお手紙紹介

5年前東日本大震災で被害に遭い、これからどうすればいいのかわからず毎日不安でした。子供の入学準備等
悩みも多かった頃、ユネスコ協会就学支援奨学金のお話を
頂き、とてもありがたかったです。
お蔭様で、娘も高校三年生になり、来年卒業後の
目標に向けて頑張っています。
皆様のお力添えのおかげで、今がある事に心から
感謝致します。

高校入学前より、3年間多大なご支援を頂き、ありがとうございました。

震災で全てを失った私達にとって、皆様のご支援は、
希望を支えて下さいました。又、お子も高校生らしい
生活を送れたことと思ひます。

それぞれ就職先、進学先が決まり、ひと安心すると共に
支えて下さいました皆様への感謝の気持ちを忘れず、
社会で活躍することを機待しています。

東日本大震災により、帰還困難区域になり避難生活を余儀なく
され、住みなれた大熊町から郡山に移り、それに伴い、子供達も
郡山の学校に転校しました。

終には転校した時、小学5年生でしたが、友達と離れ、人みじの
性格のためか、新しい学校生活になかなかなじみず、成績も下が
てしまいました。

中学校に入学した頃は、同学年の子供ともめて泣いて帰ってきた
時もありましたが、今では、学校に1日も休まず通っていますので
精神的にだいぶ強くなってよかったと思ひています。

多大な御支援を頂きありがとうございます。

震災に遭い私達の家族は、このままどうあかるとか出来
ないのではと思う日々を過ごし、生活全般をとり戻す為、毎日、
毎日不安との戦いでした。震災当日、小学六年で卒業式、真近の
幸せな生活を送り、何も苦学もなく、中学へ入学と決っていた矢先
でした。子供が通っていた小学校は津波により大きな被害にあり、
六年間の学舎は、無残な姿になりました。校舎には、卒業アルバムが
子供達の手に渡される事なくドロみみれになってしまっていました。
あれから五年の月日が経ち、高台移転の為に山に崩され、津波の
被害がひどい所に土地を盛工しています。そのために、今まで
住み慣れた風景は、赤茶色の土肌がムキ出しの「おれ地」の様です。
でも、このおれ地が生まれ変わり、未来への希望の色となる事を信じて
復興をこの地で新り生きていこうと思ひます。

この度は、ご支援 本当に本当にありがとうございます。

先日、無事、中学校を卒業するこでできました。

震災5年...被災し、この地に来、娘の不登校、体調不良などが
続き、まだまだこれから。これからは、娘に寄り添い、母が太陽、笑顔で
乗り越えて行きます。

娘を信じ、娘らしく輝いて行けるよう励まし、希望を持ち、
しっかりと歩いて、どんなに苦しくとも負けないで、1歩、1歩でも
前進して来た娘に感謝の思いがいっぱいです。

本当に、ありがとうございます。